

## 第 54 回神奈川県立座間谷戸山公園 現場研修会報告

—テーマ：湿地と草地環境の順応的管理—

今回の研修会では、今年の5,6月に行ったホトケドジョウのビオトープ再生の続きで谷戸の水路の造成、そして午後は、前回に引き続き野鳥の原っぱの順応的管理のための調査を行いました。



まずは研修会の内容を講師の石川氏に説明してもらいます。4ヶ月ぶりとなるホトケドジョウのビオトープ再生についてもしっかり解説してもらいます。



5,6月に途中まで造成していた水路は、崩れたりせずしっかりとした形で残っていました。



ということで、引き続き湧水地点に向かってホトケドジョウのビオトープとなる水路を延ばしていきます。



途中、水路があまり暗くならないように、山側にあるヒサカキやシラカシなどの常緑樹を切っていました。切ったものは細かい枝葉を落として…



杭や粗朶として水路の造成に活用します。



常緑樹を切っていると、マヨネーズと揚げ玉のゴミがいくつも出てきました。これ、誰の仕業だか分かりますか？

正解は、カラスです。

カラスは油が大好きなので、これらを拾ってねぐらに持ってきたのでしょう。



そして作業終了です。今回はあまり人数が多くなかったのですが、それでもしっかり水路を延長することができました。



昼食後は恒例の環境に関する記事の発表です。テキストの勉強や現場実習も大事ですが、日々の動きに目を向けておくことも、とても重要です。



午後は前回に引き続き、野鳥の原っぱで調査の実習です。

前回図面上に位置を落とし込んだ周辺の樹木を基準に、原っぱの位置を計測していきます。樹木と原っぱの位置関係も、この場所のひとつの特徴となります。



一概に原っぱといっても、単一な環境ではありません。

両写真ともほぼ中央を境に、右側が半年以上前に草刈りをした区域、左側が草刈り後3ヶ月弱経った区域です。管理によってだいぶ環境が変わってくるのがよくわかります。



また、同じように見えても、生育している植物の違いによって、細かく環境を分けることもできます。

写真(左)では分かりづらいですが、真中が踏み固められた道になっていて、それを境に植生が微妙に異なっていました。これも位置を計測していきます。



計測も一見簡単そうですが、なかなか難しい  
ものです。経験を重ねることが一番ですね。



完成した図面です。

こうやって原っぱの現状が分かってくると、  
今後の管理の計画を立てやすくなるんですね。



調査中、原っぱのススキの上には  
ナツアカネが飛んできていました。

これで今回の研修会は終了です。次回は引き続きホトケドジョウのビオトープの再生と、野鳥の原っぱの調査実習を行います。現場でビオトープが学べる絶好の機会ですので、まだ参加されたことのない方も是非一度ご参加ください！